

KSK

川崎市障害者社会参加  
推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター

所 長 中込 義昌

編集責任者 広報・啓発委員会

委員長 澤藤 充教

〒210-0834 川崎市大島 1-8-6

川崎市南部身体障害者福祉会館内

電 話 044-246-6941

F A X 044-246-6943

Email zksk@nifty.com

http://kawashinkyo.org

## 第 34 回 川崎市民のつどい



## 『市民のつどいに参加して』

「第 34 回川崎市民のつどい」が障害者週間中の 12 月 6 日(土)サンピアンかわさき・ホール(川崎市労働会館)で開催されました。

今年の市民のつどいは予想以上に多くの市民がつどい、開場前のロビーを埋め尽くす状況となりました。開場と同時に客席はほぼ満席となり、7 割程が女性客で華やかな色彩を添えて席を埋めていました。

午後 2 時に第 1 部が始まり、司会者に続いて福田紀彦川崎市長の障害者へのメッセージが副市長の菊地義雄氏により代読されました。続いて、川崎市議会議員 浅野文直氏の障害者施策に対しての市議会の取り組みと障害者への激励の言葉が述べられました。祝辞に続いての表彰式は、障害を乗り越え社会で自立した生活を送る当事者や福祉事業に貢献された

方、障害者をサポートしている支援団体及び個人の方々にその功績を称えて、川崎市長よりの表彰状が代理の方から授与されました。

また、障害者週間にちなんで応募された、「心の輪を広げる体験作文」で優秀賞に選ばれた作品を、鈴木愛星さんが舞台の上から読み上げ披露してくれました。心を打つ純真な言葉に多く

の方が感動を共にしたと思います。

休憩をはさんでの第 2 部のふれあいコンサートは、大音響の演奏に乗って暗いステージに華やかなライトを浴びて、「往年の大スター 錦野旦オンステージ」の幕開けとなりました。

オープン曲は、大ヒット曲「空に太陽がある限り」。真っ赤なステージ衣装をまとい、激しい動きの中で謳う往年のスターに、客席からは、昔の乙女に戻ってしまった感じのおばさま方の「アキラ!」、「アキラ!」の大コールで、会場のムードが盛り上がりました。それに比べて数少ない中高年の男性客は、声もなく静かに見つめるだけで、その対比が面白かった。

歌手の錦野旦さんを昔のテレビ画面でしか知らない私には、歳月を経てもファンの心は持続するのかと感心しながらライトの点滅を

浴びて歌う往年のスターを見つめるだけでした。ファンサービスで、唄いながら客席を巡るスターに、通路の両客席からは、体ごと伸ばした数々の手の放列。「アキラ」の手に触れた一瞬の幸せ感。弾ける笑顔。2 部構成のショーを客席と一体感を以って時間の限りを唄い、年末の多忙の中を駆けつけたファンの彼女たちを十分に満足させてワンマンショーは終わりとなりました。

当日、開場整理及び誘導を担当した市職員をはじめ関係スタッフの皆さま本当に最後までご苦労様でした。

宮前区身体障害者協会 石山 春平

## 川崎市民のつどい 被表彰者の感想

特別表彰者 佐々木 弘毅

先日、特別賞をいただき本当にありがとうございました。賞に値する程のことは何もありませんが、家庭の中では非常に大きいものがあります。

23 年前、高速道路での交通事故、眼球がとび出し冷凍マグロ状態だった。子ども 3 人はまだ小さい。でも生きていることに励まされ、生きていてくれたので、元気で来られました。

13 年間位は会話も出来ませんでした。そしてこのままの人生だろうと思って居りました。ところが山は動くんですね。

現在では夫婦で話し合い、会話が豊富になり「この、夫婦の会話・関係が大切なんだ」と指導してくれます。子どもとの接し方・問題点・私の精神分析まで…。やっぱり 2 人で夫婦の会話が出来ることが心強くもあり、心豊かにもなります。本当に平穏な日々感謝して居ります。

本人様は、賞に対して「おどろ木、ももの木、さんしょの木」と申して居ります。

残された人生、大切に生きていきます。ありがとうございました。(文:妻 艶子)

## 川崎市民のつどいで表彰されて

更生援護功労者 下釜 <sup>しもがま</sup> みね子

私は、脳内出血で倒れ右マヒの障がいを負うことになりました。入院時は、「今夜が峠です」と言われる程状態は悪かったのですが、一命を取り留めました。医師からは自力で歩くのは不可能でしょうと説明されましたが、そんなはずは無いと持ち前の負けん気で入院中から、固まって動かない右手に左手で箸を入れ右手で食べる練習をしたり、必死で立ち上がり歩行訓練にも取り組みました。その結果ゆっくりですが杖をつけて歩いて退院するまでに回復し医師も驚いていました。

退院後は訪問看護師さんに来て頂いて、家でのリハビリや病院のリハビリにも毎日通いました。少しずつ歩くスピードも増して、一人でも外出出来る様になり、孫を連れて公園に散歩に出かけたりと楽しみも見つけられる様になりました。ワークショップに通い、作業をするうちに右手もずいぶん使える様になりました。

今では朝早く起きて 40 分かけて歩いて整形外科へリハビリに行くのが日課です。リハビリの先生のご指導のおかげで引きずって歩いていた右脚も、あげて歩けるまでに回復しました。病院で毎朝元気に「おはよう」と挨拶し同じ病で通っている人と話すと、分かり合える事もあり、又頑張ってリハビリをしようと思えます。

思ってもいなかった脳出血で障がいを持つ事となり絶望的な気持ちになることもありましたが、多くの人と出会い助けられてここまで来られたと感謝しています。日々前向きに明るく過ごしてきたことにより回復してほぼ自立した生活を送れ、今回表彰して頂くことが出来て、これからも頑張っていこうという励みになりました。ありがとうございました。

## 災害対策検討委員会について

### 災害対策検討委員会の組織・役割

公益財団法人川崎市身体障害者協会（以下、川身協とする）では、非常災害時に備え、取り組むべき課題や対策について検討することを目的として、災害対策検討委員会を平成 25 年 11 月 1 日に設置しました。

この委員会は、川身協の構成団体（視覚、聴覚、肢体、脳性、脊損、オストミー、難聴、腎臓）及び地区団体（中央、大師、田島、幸、中原、高津、宮前、多摩、麻生）から 1 名ずつ推薦された者により組織され、事務は川身協の事務局が行っています。

障害者が地域で安心して暮らすことができるようにするためには、障害者自らが積極的に声を上げていく必要があります。

災害対策検討委員会では、障害特性に配慮した防災体制の整備、支援の在り方等について、障害者団体相互の連携、支え合い活動並びに地域における住民組織等の相互理解を図り、孤立化しないよう非常災害時に対応するための取り組みを行います。

障害者自ら何が問題で何ができるかを検討し、特に非常災害時における安否確認、災害時の個別支援、福祉避難所等の問題等について議論したものをまとめ、関係機関に働きかけをして参ります。

※川崎市の「災害時要援護者避難支援制度」に登録しましょう！

### 防災訓練に参加して

私の住む団地では、年 1 回防災訓練を実施している。

集合時間と場所は、あらかじめ決めておき、棟別に空き地に集合。

私は、車いすのため、エレベータで事前に集合場所に待機。

訓練内容は、救命処置、三角巾の使い方、

物干竿を使った担架の作り方、消火器を使った消火訓練、アルファ米及び豚汁の炊き出しなどを約 2 時間。

私は毎年参加しているが、参加することにより「必ず助けに行きますからね」という言葉をかけていただくようになりました。

3. 11 では停電になり、エレベータが止まっていました。私は 6 時間かけて会社から帰ってきたのですが、その間、隣の方から「帰ってこられたら手伝いますから言って下さい」とわざわざ妻に言いにくてくれたそうです。近年、隣の方の名前も顔も知らない事が普通になっているが、近隣との日常的な付き合いの大事さを痛感しています。社会参加は、遠くで行われる行事に参加することに目がいきがちですが、近隣の方との挨拶から始まり、自治会の行事のように身近なところに参加することも重要な「社会参加」ではないかと思う。

これは、助けてもらうことだけが目的ではなく、社会で暮らすということは、そういうことではないかと思う。

地域で暮らすことの重要性から、在宅での生活や介護が主流になっている昨今、在宅からの避難は重要な課題である。高齢社会では、元気に暮らしていた方も集合住宅の 2 階以上の階に居て、単独で避難することは困難な方も多い。車いすなど歩行に障害ある方の避難については、停電などによりエレベータが使用できない状態を想定して安全に避難できる体制の構築が急務と考える。

先の避難訓練では、住民の方が、車いすを階段から降ろす場合の方法についても熱心に聞いていただいた。

「川崎市災害時要援護者避難支援制度」の登録をしても行政の指導及びチェックがされているのだろうか。自助・共助と共に両輪として機能すべきではないかと感じている。

高津区 室住 二三夫



## (公財)川崎市身体障害者協会 構成団体紹介

### 特定非営利活動法人 川崎市ろう者協会

当協会は、昭和 37 年 4 月 15 日に「川崎市ろうあ福祉協会」として設立。その後、昭和 48 年に「川崎市聴力障害者福祉協会」、昭和 60 年に「川崎市聴力障害者協会」と二度の名称変更を経て、平成 17 年 11 月 1 日から「特定非営利活動法人 川崎市ろう者協会」となりました。略称は、NPO 法人川崎市ろう者協会と言います。事務所は中原区井田三舞町にある川崎市聴覚障害者情報文化センターの交流室においております。

平成 27 年 2 月現在、当会の会員は正会員・賛助会員合わせて 287 人です。その他関係者の皆さまにご協力を頂いて、福祉向上の為に活動を進めています。

上部団体として、神奈川県聴覚障害者連盟・関東ろう連盟・全日本ろうあ連盟があります。また、川崎 7 区に協会があり、それぞ



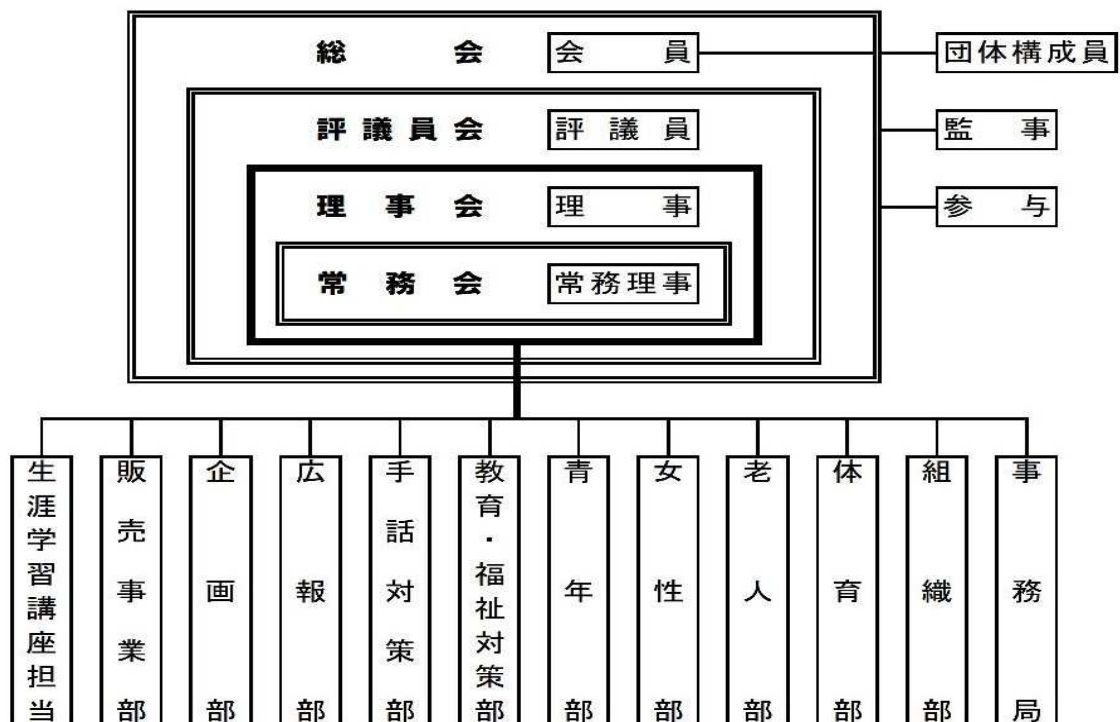
(「なのわ」クリスマス会)

れの区でも活動をしています。

各区の手話サークルはあわせて 16 ヶ所あり、聴覚障害者と健聴者が協力しあいながら手話指導や季節ごとの行事を企画し楽しんでいます。また、区内の小・中学校での手話講座に協力しています。

普段の当会の活動としては、「ひとりぼっちのろう者をなくし仲間の輪を広げよう」を、合言葉にろう者のつどい・研修旅行・怪談納

### 特定非営利活動法人 川崎市ろう者協会 組織図



涼会・BBQ(バーベキュー)大会・クリスマス会・新春のつどい等を、企画して交流を深めています。ろう高齢者を対象としたミニデイサービス「なののわ」も行っています。また、自分たちの勉強や市民の皆さまに理解を深めていただくことを目的として、生涯学習講座を企画し開催したり、川崎市聴覚障害者情報文化センター主催の聴覚障害者福祉講座への協力などをしています。

そして、会員相互の情報共有のために機関紙「川ろう協だより」を、毎月作成、会員・賛助会員・関係団体に発送しています。また、HP(ホームページ)も作成し、様々な行事の日程・内容の案内を掲載しています。



(当会のホームページ)

そして、私達の言語である「手話」の指導も積極的に行っています。川崎市聴覚障害者情報文化センターが主催する厚生労働省のカリキュラムを使用した手話講習会(入門・基礎・基本・応用・実践の5課程)への講師派遣の他にも、市内の高校・専門学校・大学での福祉体験講座や手話指導なども担っています。

昨年は、武蔵小杉駅前に新しくオープンしたグランツリーの販売スタッフに、手話指導を行いました。今、手話指導を受けた販売スタッフは「手話ができます」と書いてあるバッジをつけて接客をしています。一人でも多くの方が手話を使ってくれることで、手話の普及にも繋がります。

昨年 12 月 25 日は、私達に大きなクリスマ

スプレゼントが届けられました。それは、神奈川県手話言語条例が制定されたことです。とても喜ばしいことです。私達の長年にわたる運動の成果が報われました。これで終わりではなく、これからもより一層聴覚障害者の福祉向上のために努めてまいります。

NPO 法人川崎市ろう者協会 山野内 一人

## 川崎市脳性マヒ者協会

川崎市脳性マヒ者協会は、昭和 38 年に青い芝神奈川連合会の下部団体として生まれた組織です。

### ○主な活動

#### ・研修旅行及び社会見学

脳性マヒ者の自立・社会参加を目的とし、年に 1 回行われ、会員同士の親睦を深め、情報収集・情報交換の良い機会となっています。

#### ・講師を招いての研修会

#### ・個人や家族の悩み等の相談

脳性マヒの子供を持つ若いお母さんが、自分の子供にどう対処したらいいのかわからない時など、相談を受けています。

#### ・機関誌の発行や問題提起

会員が執筆する『CP スマイル』を発行しています。また、行政との交渉も行っています。将来、ホームページで公開できるように頑張っています。

#### ・勉強会

地域で開催される会議に参加し、その内容を会員に提供し、障害者の QOL(生活の質)を高めることを目的とした意見交換を行う等しています。

#### ・会員募集リーフレット等の作成・配布

会員の高齢化に伴い以前のような活発な活動ができなくなりつつあります。この機会を持って、川崎市脳性マヒ者協会のことをより多くの人に知っていただき、活動にご参加いただけることを心より願っています。

川崎市脳性マヒ者協会 内藤 満

## 第 1 回ふれあいバザールみぞのくち(ふれあい製品展示即売会)盛大に開催される

平成 26 年 11 月 27 日 (木) 11 時から、JR 武蔵溝ノ口駅南北自由通路において、「第 1 回ふれあいバザールみぞのくち」が開催されました。



(ふれあいバザールの様子)

障害者ふれあい製品展示即売会は、川崎地下街アゼリア・サンライト広場を借り、平成 21 年 3 月にはじまり、年 1~2 回行ってくることができました。

しかし、同所は平成 27 年 2 月よりリニューアル工事が行われることになり、サンライト広場において本年度 2 回計画していた展示即売会も年度後半には実施が難しいことになりました。

一方で、市北部にある障害福祉サービス事業所等からは、中北部での開催を求める声が以前から寄せられていました。

中北部地域での開催に向けては種々検討してきましたが、天候に左右されず、20~30 の出店スペースがあり、かつ多数の市民の往来のある所で、ふれあい製品の良さを直接 PR できる適所がなく苦慮していたところでした。

このような経過の中で、川崎市健康福祉局の努力と熱意により、溝ノ口駅南北自由通路で、外行事であることも考慮し 11 月下旬に開催することが決まりました。

ふれあいバザールは、

### ①市民への関心を高める

障害のある人が働く障害福祉サービス事業所等での活動は施設内での



作業が多く、何をしているのか、市民に伝え、障害への知識や理解を深め、障害者の地域生活の推進を図る。

### ②地域の交流

障害のある人が地域で暮らすために多くの市民と触れ合える機会をつくる。

### ③ふれあい製品の魅力の発信

一つひとつ丁寧に作りあげたクッキーやケーキなどの焼き菓子やパンのほか、障害のある方々が作っているからこそ魅力のあるビーズアクセサリー、織物など様々な手作り製品を紹介する。

### ④販売場所の提供

多くの市民が目にし、手にとることができる場を提供する。出店数は 20 とする。

このようなコンセプトの下で、開きました。



(会場：武蔵溝ノ口駅南北自由通路の様子)

駅の改札口前という好条件もあり、開店準備の段階から多くの方が見に来て下さいました。

パンやクッキーなどは午前中売切れということになったり、施設によっては商品を取り戻るところもありました。

さらに、川崎市健康福祉局の協力で、同局のキャラクターである「うさっぴー」も登場し、子どもたちや女子高校生が写真を撮るなど会場は大いに盛りあがっていました。



川崎市育成会手をむすぶ親の会の方々もチラシ配りなどで大いに協力をいただきました。次回開催への期待も高まっているところです。

(社福・ともかわさき事務局分室 安達)



## 川崎市内の障害者作業所紹介 社会福祉法人ともかわさき「ちとせ」

平成 22 年 4 月 1 日に新規開所し、日中事業所としては法人 13 か所目となりました生活介護事業所です。

### 主な活動

主な活動は下請け作業として、ボールペンの組み立て・箱詰め、タオル・ガウンたたみ、商品券入れ箱折り・組み立て等を行っています。自主製品は木のおもちゃ、ミニ枕、フェルト小物等の作成を行っています。

また、皆さんの楽しみの行事は、餅つき会、クリスマス会等の季節行事。毎月いろいろな種類があるクラブ活動、そして少人数で出かける個別外出等があります。

事業所の特徴としては…

- ・ 厨房があり、近くの事業所分も含め、毎日約 100 食のお弁当を作り、利用者さんと一緒に配達に行きます。
- ・ オール電化のため、エコでクリーンな事業所です。



(「ちとせ」の外観)

### 1日のスケジュール

- 8 : 40 送迎車出発
- 9 : 00 サービス開始
- 10 : 00 朝の会
- 10 : 20 活動開始
- 11 : 50 活動終了
- 12 : 00 昼食
- 13 : 30 活動開始
- 14 : 10 活動終了
- 14 : 30 帰宅準備
- 15 : 10 帰りの会
- 15 : 30 送迎車出発



JR武蔵溝ノ口駅北口より東急バス溝22  
蟹ヶ谷行 橋出張所前下車徒歩1分

現在利用者さんは 40 名で毎日賑やかに過ごしてします。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

所在地 川崎市高津区千年 1355  
事業 生活介護  
定員 40 名  
職員 14 名  
延べ床面積 680.4 m<sup>2</sup>

(ちとせ施設長 渡辺)

# 川崎市障害者作品展



(前半に展示された作品)

平成 26 年度の川崎市障害者作品展は、11 月 29 日 (土) ~12 月 11 日 (木) の 13 日間、川崎駅東口アゼリア地下街市役所通りアゼリアギャラリー1 面 (A) 展示スペースにて展示が行われました。

この作品展は、「障害者が創作した個人作品を広く一般に公開することにより、文化交流及び障害者の社会参加推進を図り福祉の向上に寄与すること」を目的に毎年、同時期に開催されています。

今年は、51 名がエントリーし、手工芸が 7 点、絵画が 15 点、書が 27 点、写真が 2 点全 51 作品の展示となりました。

展示スペースに対して、出展点数が多数であったため、期間を半分に区切って前半・後半に分けて展示を行いました。

次回以降もさらに多くの方のご参加を心よりお待ちしております

(事務局)



(後半に展示された作品)

※障害者社会参加推進センターでは、本紙へ掲載する作業所の紹介記事を募集いたします。

○テーマ：「川崎市内の障害者作業所の紹介」

○原稿字数：20 字×40 行~80 行 程度

写真やイラストも可

○原稿締め切り：常時受付け

○原稿ご送付方法：郵送・FAX・E-mail 等  
先ずは、お問合せ下さい。

(詳細についてのお問い合わせ先)

川崎市障害者社会参加推進センター

(公益財団法人川崎市身体障害者協会内)

事務局 担当：澤邊 (さわべ)

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6

TEL 044-246-6941

FAX 044-246-6943

E-mail sawabe@mbr.nifty.com

## 編集後記

26 年度最後の広報紙となりました。市民のつどいに参加された方、如何でした？1 部の表彰された方からの感想をいただきました。皆同じ障害者であり、障害の不自由はさまざまですが、当事者の努力の素晴らしさと支える家族、友人、上手い支援制度利用など多くの人々と繋がりながら生活をされている様子が伺え勉強になりました。

先日、川崎タクシーKKの「UD(ユニバーサルデザイン)タクシー川崎夜景ツアー」募集があり参加、2 時間ほどのツアー、普段見ることのない工場夜景は東京、横浜のダイヤモンドとは違い真珠のような静かな輝きで綺麗でした。UD タクシーの乗り心地はクッションが柔らかく車いすの乗降も体にやさしく楽しいツアーでした。今後はタクシーとして活躍、料金は一般料、障害者が安心して外出が出来そうです。詳しいことは次回広報紙に載せます。



(鈴木 雅子)

(頒価 100 円)